

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ高粱（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月11日		～ 令和6年11月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和6年10月24日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別通所計画に沿った個々の先生とお勉強の課題へ取り組み、目標達成に向けた実施。	・ビジョントレーニングや聞き取りトレーニング、認知発達など、アセスメントを元に個々に合わせて課題に取り組んでいる。 ・各種検査にて課題や成長を確認している。	・書字や読字の苦しさなど、読み書きに関する取り組みや支援の充実を行う。 ・SSTとして他者と関わりについて実践形式での学びを提供する。
2	・申し送りにて保護者様への具体的な支援の様子の情報提供。	・先生とお勉強課題だけでなく、自由遊びの様子など、色々な話題を提供することを大切にしている。 ・保護者様の思いに寄り添えるように、支援に関する思いや要望は職員間で共有を行っている。	・保護者の思いやご家庭での様子もお聞きし、より良い申し送りやコミュニケーションを高めていく。
3	・家族プログラムとしてペアレントプログラムや講演会などの家族支援の機会の発信。	・チラシの配布やお声掛けを行っている。 ・具体的なプログラムや講演会の内容を明確にして伝えている。	・参加者の増加に向けて、日程や時間帯、参加者なども含め、周知を早めに行う。 ・相談支援ファイルの書く会など、地域の中で取り組めていない会の実施を計画する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもの活動スペースに合わせた構造化の再整理。	・児童発達支援から放課後等デイサービスの子どもたちの利用が増加し、活動スペースが工夫を行っているが、各エリアに目的を持って取り組むため、手狭になる。	・子どもの利用人数に合わせて、児童発達支援と放課後等デイサービスのエリアの再設定を行い、子どもにあった人数調整を行う。
2	・保護者様が日々の支援の確認ができる機会の提供。	・療育参観についての情報提供の場が少ない。 ・支援の様子を見てみたい情報提供ができていない。	・親子療育の情報提供について整理し、つむぎ通信やfacebookでの発信を行う。
3	・地域の子どもたちと交流する機会の提供。	・地域の小学校を利用する子どもたちも多く、日々の生活の中で地域の子どもたちとの交流は多いが、つむぎ高粱の中で関わる機会は少ない。	・子ども食堂（たまりば）などで地域の子ども達と関わる機会を設けることや、参加者を増やしていけるように、魅力的な活動の設定を行う。